

山陰総合

身近なニュースは

本社編集局

TEL0852(32)3320

志願倍率 7学部で増

大学4次試験
両県2

前期 島大30倍、鳥大37倍

国公立大学2次試験の出願が3日締め切られ、山陰両県4大学は同日午後5時現在の志願状況をまとめた。前期、後期を合わせた志願倍率は4大学の14学部

中、7学部で増加した。最も倍率が高かったのは鳥取環境大学の経営学部経営学科・後期で38・1倍。いずれも速報値で、各大学とも来週中には確定値をまとめる。

鳥根大は前期(募集定員669人)の倍率は前年同期比0・8割減の3・0倍で、後期(同202人)は0・4割増の9・5倍。鳥取大は前期(同701人)が0・2割増の3・7倍で、後期(同235人)は2・0割増の11・7倍だった。

鳥根立大は総合政策学部・前期は3教科型(同60人)が6・0割増の10・2倍、5教科型(同60人)が10・1割減の2・9倍。後期(同25人)は6・5割増の13・0倍だった。前期日程のみの看護学部(同37人)は2・4倍で前年同期を6・7割下回った。

1月29日に締め切った短期大学部(同93人)は確定値で0・3割増の3・3倍。同学部の4年制化に伴う改編で、一部存続が決まった保育(同28人)は1・1割増の3・8倍、総合文化(同35人)は横ばいの3・8倍だった。

鳥取環境大は前期A方式(同110人)が1・3割増の4・8倍、前期B方式(同40人)が1・1割減の5・6倍。後期(同20人)は4・9割増の26・9倍だった。(佐々木一全)

遊覧船で活性化策紹介

学生サークル 堀川委員会 松江市長を訪問



松浦正敬松江市長（左）と堀川遊覧船の魅力について語り合う学生たち

松江城下を巡る堀川遊覧船の魅力を発信する学生サークル「みんなの堀川委員会」のメンバー3人が9日、松江市末次町の市役所に松浦正敬市長を訪ね、活動内容や若者目線での活性化策

を紹介した。

同委員会は2015年12月、遊覧船に着目した初めての学生サークルとして結成。島根大と県立大短期大

学部松江キャンパスに通う

県外、市外出身の学生11人

が所属する。

県立大短期大学部1年の葛西理世委員長(19)、林紗羅さん(19)島根大1年の田中和人副委員長(19)が出席。林さんは遊覧船と松江の和菓子を絡め「船内で和菓子の食べ比べをしてみたい」と提案し、田中副委員長は「松江に愛着を持つ学生を増やしたい」と述べた。

松浦市長は「遊覧船を切り口に、まちづくりや歴史を学び、いろんな意見を出してほしい」とエールを送った。

今後は月2回集まり、城下町の知識を深め、遊覧船に若者を呼び込むイベントを考える。葛西委員長は「長く継続する委員会を作り上げたい」と意気込んだ。

(曾田元気)



堀川遊覧船の活性化について考える葛西理世さん(左)と田中和人さん

仕掛け作りに知恵絞る

目黒区 プラスアルファ

松江市の松江城下を巡る堀川遊覧船の魅力が若者目線で発信しようという学生サークル「みんなの堀川委員会」が結成された。堀川遊覧船は、城下町観光の定番コースながら乗船客は高齢の団体客が多く、若者にとっては縁遠い。メンバーの若者ならではの視点や発信力を生かし「若い客を呼び込むきっかけになれば」と関係者は期待。遊覧船の人気を支える高齢の船頭たちに負けじと、学生たちも若者を引きつける仕掛け作りに知恵を絞る。(曾田元気)

若い乗船客取り込みへイベント検討中

「これまでの遊覧船は高齢者目線だった。若者らしや逸話を解説する船頭の軽いアイデアを出してはし妙な語りが好評。年間30万回」。9日、同市末次町の人が乗船する。ただ、市役所で、委員会メンバー乗船客の多くは高齢者。裾の表敬訪問を受けた松浦正野を駆け、新たな活気を生むには、若者を取り込む工夫が欠かせない。

1997年に運航を始めた堀川遊覧船は、約50分かけて歴史の面影を残す城下町を巡る。水辺の鳥など「県外出身者が多いが、より松江を知り、活動していききたい」と応じた委員長

「説明できるくらい研究し、イベントを成功させたい」と意気込む。高齢の船頭が人気を引く張って来た遊覧船に、若い応援団が加わり、新たな扉の足掛かりはできた。同世代を引き寄せるには、委員会の学生自らが遊覧船を使って、いかに遊べるかが鍵になりそうだ。

の葛西理世さん(19)は、県立大短期大学部1年、高松市出身。乗船客の多くは高齢者で、遊覧船を舞台に若者向けのイベントを仕掛けること。遊覧船の動機づけになると、松江の和菓子店の食べ比べなど具体案を検討中。並行して堀川の歴史学習を進め、案内役としてのスキルアップも図る考えだ。

副委員長の田中和人さん(19)は、島根大1年、大津市出身。遊覧船のことを

島根県民会館の長期休館余波



耐震補強工事のため1月から休館している島根県民会館。松江市殿町

松江市殿町の島根県民会館が耐震補強工事で長期休館しているため、同会館で毎年イベントや行事を行っている地元団体は、会場や日程を変更するなど対応に苦心している。40年以上続く伝統行事の市外開催を決めたケースもあり、島根を代表する文化芸術拠点の存在があらためて浮き彫りになっている。

(和田守涼平)

県民会館は1968年に現在地に開館して以来、半世紀近く音楽や演劇、映画などの公演を行ってきた。耐震補強工事は2016

演劇会 プラバで小刻み開催 「ほいくまつり」は出雲へ遠征

卒・入学式も相次ぎ別会場に

問題となるのが、この期間の催し開演。県内最多の客席数を誇る大ホールは14年、1、10月の利用可能日数277日のうち、14

7日の利用があったが、こうした利用の中には県民会館を毎年会場としてきた催事も多いから

だ。大ホールで毎年6回、演劇鑑賞会を開いている同市朝日町の松江市民劇場は、5月までの3回分の会場を同市西津田6丁目のプラバホール(808席)に改め

た。収容人数が半分程度に減るため、客を確保しようと、従来は1白1回の公演を、

昼夜や2日間の2回に増やした。さらに一複数の役者の声が響き合って聴き取りにくくなることもある。

(石橋洋男事務局長)というプラバホールの特性を踏まえ、出演者の多い演劇を控え、狂言や一人芝居を上

演作品に選んだ。

保育学科の学生が力を合わせて作り上げる「ほいくまつり」を、73年から続ける同市浜乃木7丁目の県立大短期大学部松江キャンパスは、初めて松江を離れ、

6月に出雲市塩治有原町2丁目の市民会館の大ホール

対応に関係者苦心 文化芸術拠点の存在感再認識

(1、2、10席)でまつりを開く。

チラシやポスターを松江市内の保育所などに配布して、1500人以上の親子を県民会館に集めてきた島根女子短大時代からの伝統行事。開催地変更で集客に未知数な部分は多くなるが、担当する福井一尊准教授(39)は「出雲市民に知ってもらいたい機会。松江の人への会場変更の周知も含め、PR方法を学生と話し合っていく」と前向きに捉える。

間もなくシーズンを迎える卒業式や入学式への影響も。同松江キャンパスは例年県民会館で行う入学式と卒業式をこの春は学内で開く。島根大と松江工業高等専門学校も卒業式を県民会館から別会場に移す。

毎年10月に3日間開く松江市小学校中学校連合音楽会は工事終了後の11月に開くなど、日程を変更する催しもある。

同館では、会場変更に伴う舞台技術の相談に応じるほか、音響や照明のスタッフがイベント開催地に向いて手伝うなど休館中の技術支援を行っており、西尾俊也館長(33)は「不便をかける。フォローに努めたい」と話している。

県立大短大部四年制化

初期費用総額50億円

島根県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目、松江キャンパス）の一部四年制化に伴う初期費用が、総額50億円程度になることが分かった。2018年4月に予定する新課程開始後の

年間運営費の県負担は2億円と見込み、現状より1億8千万円圧縮するとしている。

現在の健康栄養学科を出雲キャンパス（出雲市西林木町）へ移転し、四年制の看護学科と統合して看護栄養学部を設置するの

に伴い、新校舎建設に26億円、設計・管理費2億円、備品・移転費4億円を見込む。

松江キャンパスは、現在の保育、総合文化両学科を統合した四年制の人間科学部を新設する一方で、両学

科の一部は残す。定員が460人から618人になることから、新校舎建設で7億円を想定。既存施設改修費5億円、備品・移転費2億円、設計・管理費1億円を投じる。

このほか、教員の確保や国への申請事務など準備費は2億円。総事業期間は15～19年度で、3割が地方交付税で措置される県債で36億円、一般財源で14億円を賄う。実質の県負担は39億円と見込んだ。

16年度一般会計当初予算案には、出雲キャンパス

関連5億1500万円、松江キャンパス関連3千万円、準備費6500万円の計6億1千万円を計上した。年間の運営費は、授業料などの収入が10億1千万円に対し、教員の人件費など

の支出が12億1千万円で、県負担は2億円。現状は収入3億9千万円に対して支出7億7千万円で、差し引き3億8千万円を負担しており、1億8千万円の負担軽減になるとみている。（尾添大介）

スイーツ開発で苦勞など 活性化策の活動報告



取り組んだプロジェクトを報告する学生

松江

県立大短期大学部（松江
市浜乃木7丁目）の学生が
考案する地域活性化策に
対して、大学側が助成金
を出して支援する「キラキラ
ドリームプロジェクト」の
活動報告会が16日、同大で
あった。松江市ゆかりの文
豪・小泉八雲にちなんだ怪
談スイーツの開発などに
取り組む4団体が、活動を
通し学んだことを発表し
た。

昨年7月に大学側が審査
して決めた、10万円助成の
「キラキラ枠」の3団体、
20万円の助成を得た「ドリ
ーム枠」の1団体が発表し

た。ドリーム枠のメンバー8人は、小泉八雲が考案したとされる夏みかんの果汁入りサイダーや、八雲が書いた怪談「ろくろ首」をモチーフにした団子の販売を目標にして活動。代表の総合文

化学科1年の宮廻聖さん（19）は「企業に協力を依頼するに苦勞し、店の事前取材が大事なことが分かった」と話した。

キラキラ枠のうち、オクラを使うアイルランドの料理「ガンボスニア」で、イノシシ肉を使ったレンビの考案を目指す健康栄養学科2年の山本豪さん（19）は「煮崩れしにくいイノシシ

肉の特徴を生かす」とし、は満足できないこともあったが、具体的な力を込めた。たかもしれないが、ぜひ活動を継続してほしい」と総括しエールを送った。（岩井彩佳）

2018年度に一部四年制化する島根県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）で、定数配分の見直しを求める声が学校現場などから上がっている。定員50人の保育学科が新課程では10人減となるが、16年度の受験倍率が3・20倍、受験者の県内出身が62・5％を占める中で、将来的に「狭き門」となることへの懸念は根強い。（政経部・尾添大介、地域報道部・岩井彩佳）

「学力的に他校の受験に回った生徒がおり、潜在的な希望者はもっと多い」

県立大東高校（雲南市大東町大東）の進路指導担当の持田久恵教諭（48）が振り返る。

16年度入試で保育学科を受験したのは前年度比1人増の3人。進路選択で同学科を希望しながら、私立の短大や専門学校を選んだ生徒が5人いたという。

過去6年の同学科の受験倍率（一般・推薦・社会人特別選抜）は2・32、3・50倍で、県内出身の割合は56・2、71・6％で推移。16

島根県立大保育学科再編

「狭き門」への懸念根強く



保育学科の定員見直しを求める声がかかる島根県立大短期大学部松江キャンパス＝松江市浜乃木7丁目

高い地元志望率 現場の状況精査を



年度は1600人が受験し、県内出身は1000人。松江キャンパスの岸本強副学長は「県内の需要は毎年度一定数ある」と認める。

理由の一つに、経済的負担がある。2年間の授業料は「県内の需要は毎年度一定数ある」と認める。

理由の一つに、経済的負担がある。2年間の授業料は「県内の需要は毎年度一定数ある」と認める。



県は、保育士に加え、幼稚園や小学校教諭の一種免許などを取得できる社会的ニーズがあるとして、四年制化だけを進める方針だった。併存を決めた経緯がある。

実際、15年6月に山陰中央新報社が実施した県内の全46校（分校を除く）の進路指導担当者らへの聞き取り調査で、約7割の32校が四年制よりも短大部に需要があると回答した。

県議会最大会派・自民党議員連盟（22人）の五百川純寿会長は「人口減少対策に取組む中、島根に残りたい子どもたちの思いや環境を守るのが県民本意だ。その門を閉じてはならない」と強調する。

県は新課程の定員を四年制、短大部いずれも40人に設定。短大部は現行より10人減になる。5人が受験した県立浜田高校（浜田市黒川町）の野村宗平進路指導部長（59）は「保育士不足の中、削減するメリットは見つからない」と話し、2人が受験した県立島根中央高校（島根県川本町川本の舟津亮二進路指導部長（46）も「県西部は保育士不足が深刻だ。10人減は志望する生徒にとっても厳しい」と不安視する。

15年12月時点の県内の保育士の有効求人倍率は1・63倍と他業種よりも高く、松江市鹿島町の恵霊保育所長を務める市保育研究会の杠佳子会長は「保育学科は優秀な保育士を輩出してほしい。2年間しっかり学び、現場で実践を積むことが大事」とする。

同年6月の定例県議会の総務委員会では、県議が高校生らへの実態調査の継続を要望。第2会派・民主県民クラブ（8人）の須山隆会長は「四年制、短大部の適正な定員は何人なのか、保育士の労働環境改善を含め、現場の状況を精査する必要がある」とし、県議会でも議論を続ける考えだ。

新課程の開始まで2年。県立大が果たす役割は何かを主眼に置き、実態に合った定員設定が重要になる。

とする。健康栄養学科（40人）は、出雲キャンパス（出雲市西木町）に移し、看護学科（80人）と統合して四年制の看護栄養学部（看護学科80人、健康栄養学科40人）を設ける。新校舎建設など初期費用は、総額50億円程度になる見通し。

県議会から異論

四年制化への検討過程で

保育士不足深刻

県は新課程の定員を四年制、短大部いずれも40人に設定。短大部は現行より10人減になる。5人が受験した県立浜田高校（浜田市黒川町）の野村宗平進路指導部長（59）は「保育士不足の中、削減するメリットは見つからない」と話し、2人が受験した県立島根中央高校（島根県川本町川本の舟津亮二進路指導部長（46）も「県西部は保育士不足が深刻だ。10人減は志望する生徒にとっても厳しい」と不安視する。

15年12月時点の県内の保育士の有効求人倍率は1・63倍と他業種よりも高く、松江市鹿島町の恵霊保育所長を務める市保育研究会の杠佳子会長は「保育学科は優秀な保育士を輩出してほしい。2年間しっかり学び、現場で実践を積むことが大事」とする。

同年6月の定例県議会の総務委員会では、県議が高校生らへの実態調査の継続を要望。第2会派・民主県民クラブ（8人）の須山隆会長は「四年制、短大部の適正な定員は何人なのか、保育士の労働環境改善を含め、現場の状況を精査する必要がある」とし、県議会でも議論を続ける考えだ。

新課程の開始まで2年。県立大が果たす役割は何かを主眼に置き、実態に合った定員設定が重要になる。